



## Tomomi Nishimoto

現在、イルミナートフィルハーモニーオーケストラ芸術監督兼首席指揮者、ロイヤルチェンバーオーケストラ音楽監督兼首席指揮者、日本フィルハーモニー交響楽団ミュージックパートナー。岸和田市立浪切ホール芸術ディレクター。大阪音楽大学客員教授、松本歯科大学名誉博士。平戸名誉大使第一号、大阪国際文化大使第一号。

大阪音楽大学作曲学科作曲専攻卒業後、ロシア国立サンクトペテルブルク音楽院オペラ・シンフォニー指揮科に留学。文化庁芸術インターンシップ奨学金生、「出光音楽賞」など受賞多数。チャイコフスキー記念財団・ロシア交響楽団の芸術監督兼首席指揮者（2004～2007）、ムソルグスキー＝ミハイロフスキー記念サンクトペテルブルク国立アカデミックオペラバレエ劇場（旧レニングラード国立歌劇場）の首席客演指揮者（2004～2006）、ロシア国立交響楽団首席客演指揮者（2010～2011）などを歴任。その他にもモスクワ市立ロシアフィルなどへも客演するなどその地で外国人として異例のキャリアを積んでいった。

「スプリット音楽祭」「ドゥプロヴニク音楽祭」「ブラハ プロムズ音楽祭」「ヴィリニウス音楽祭」などの音楽祭にも招聘されている。オーストリアのリンツ、ブルックナーハウスにおいてブルックナー管弦楽団定期演奏会での成功はヨーロッパでの活躍の第一歩となり、モナコにおいてのモンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団との公演でも絶賛される。ブダペストフィルのシーズン最初の定期公演や、ルーマニア国立ジョルジュエネスコフィル、リトアニア室内管弦楽団、リトアニア国立交響楽団、英国ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団、ラトビア国立交響楽団、ベラルーシ国立交響楽団、エルサレム交響楽団、中国国家交響楽団など次々と成功し活動範囲を広げている。2010年にはカーネギーホールにてアメリカンシンフォニーオーケストラを指揮し大成功をおさめ、2011年シーズンからはウェストチェスター交響楽団定期演奏会に招聘されるなどアメリカへ、2014年以降南米（ブラジル、ペルー、エクアドル）へも進出。オペラ指揮者としても評価が高く、ハンガリー国立歌劇場、ブラハ国立歌劇場、ウクライナ国立オデッサ歌劇場との共演でも成功をおさめている。2013年には「ヴァチカン国際音楽祭」に招聘、熱狂的に絶賛され、枢機卿ミサでは「オラショ」の原曲グレゴリオ聖歌を約455年ぶりに復元演奏をした。2014年には、「才能と芸術性と功績に対して」ヴァチカンの音楽財団より【名誉賞】が最年少で授与され、毎年招聘されている。

平城遷都1300年、高野山開創1200年記念演奏会、ラクイラ音楽ホール落成コンサート、「日ブラジル外交関係樹立120周年」記念コンサートなどの歴史的な演奏会で指揮。国内においても主要オーケストラに客演している。また、伝統芸能とオペラとのコラボ公演や埋もれた民謡の復元演奏等新しい試みを実現、近年では演出も手掛け、オペラ『蝶々夫人』（京都南座／新橋演舞場）では歌舞伎座特有の舞台で日本の伝統芸能を採り入れる等、日本文化を世界に発信している。2012年～2015年中学数学3（日本文教出版）教科書巻頭メッセージ、2004年「Newsweek JAPAN」「世界が尊敬する日本人100人」に選出、2015年エルマウ（ドイツ）・2016年伊勢志摩G7サミットに向けて、日本政府が海外へ日本国を広報するTVCM及び日本国政府公式英文広報誌「We Are Tomodachi」に、国際的に活躍している日本人として起用された。

2007年ダボス会議を主催する『世界経済フォーラム』のヤング・グローバルリーダーに選出されており、2012年にはハーバード大学ケネディ公共政策大学院「エグゼクティブ教育」に奨学金研修派遣され修了。その活動は世界から注目を集めている。

